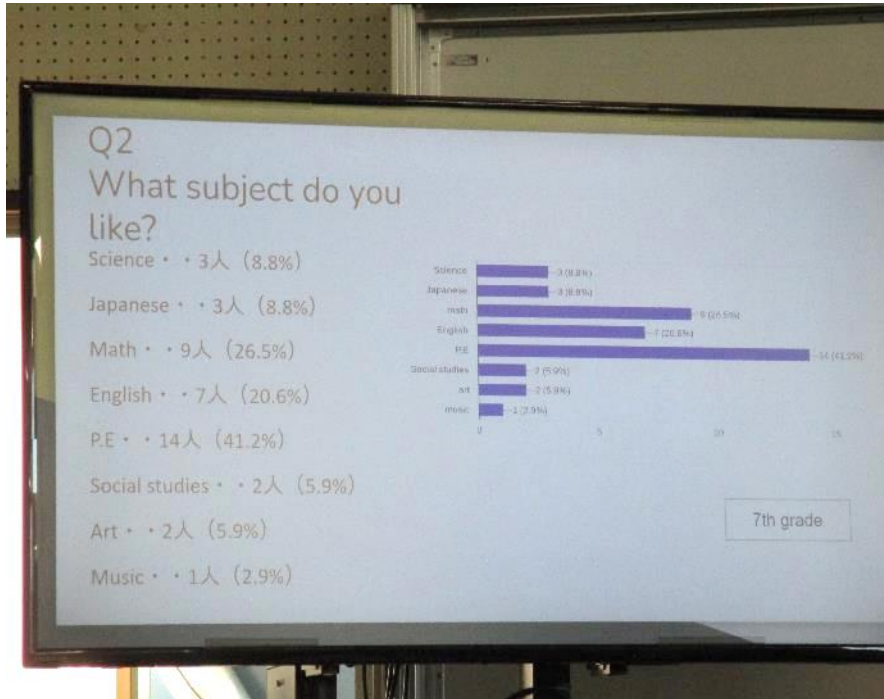


リーディングDXスクール事業 【実践事例】

興本扇学園 足立区立扇中学校

【取組内容①】 Googleスライドを協働して作成・編集したり、多様な意見を共有し合意形成したりする活動を行っている。



中学校2年生英語科の単元「Research and Presentation」では、グループごとにテーマを決め、調査した結果についてグラフ等を用いて発表する活動を行った。まずGoogleフォームで、他学年に人気のあるものについてアンケートを実施した。その後、Google Classroomの課題機能を利用し、各グループに白紙のGoogleスライドを配布し、班員が共同編集した。Googleスライドのグラフを効果的に活用することで、発表の際に聞き手が一目で調査結果を確認することができ、理解が深まった。また、スライドに英語を用いることで意欲が高まり、調査結果だけでなく自分の考えを入れて発表することで、表現する力が向上した。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

興本扇学園 足立区立扇中学校

【取組内容①】作成したGoogleスライドを用いて、下級生に心の授業を行うとともに、即時のフィードバックを通して内容を深めたり、発表内容を高めていく活動を行っている。

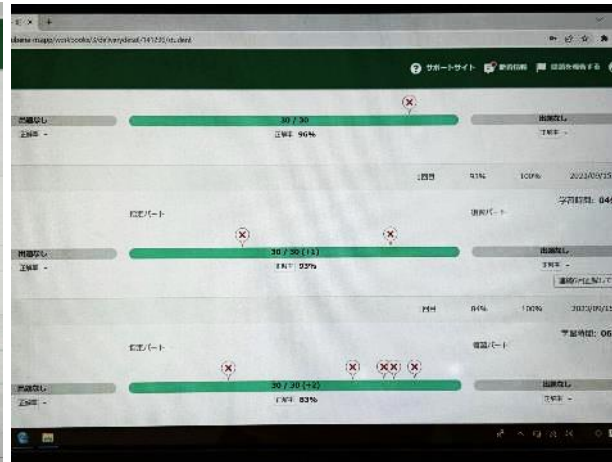


中学校2年生が、昨年度から国際コミュニケーションの授業で行っている「心の授業」を、下級生（6、7年生）に伝える授業を行った。まず、班で1つのテーマを決め、それに対しての内容をGoogleスライドで発表内容を作成した。準備時には、伝わりやすいフォントやスライドに合わせたセリフを班のメンバーと試行錯誤していき、常に「どうしたら分かりやすい発表になるのか」を意識しながらスライドを作成した。そのことが、視覚的にも分かりやすいスライド作りにつながり、下級生が学校生活の中ですぐに実践できる内容を紹介することができた。スライドを作成する時の発表は、各班が1時間（50分）の中で3回の発表の機会（15分×3回）があった。当日は、発表・タイムマネジメント・振り返りを生徒のみで行った。また、発表後、すぐにGoogleフォームでアンケートをとることで、スプレッドシートを用いてタイムリーに結果を見て振り返りを行うことができた。それにより、発表の回数を重ねる度に、発表内容や児童生徒との即興のやり取りが向上していった。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

興本扇学園 足立区立扇中学校

【取組内容③】 AIドリルを利用した放課後補充教室の実施や長期休業中の課題への取り組みを行っている。



放課後補充教室や長期休業中の課題として、AIドリルを利用した。その際、生徒は自分のレベルに合わせた学習や、教師が配信した単元の学習により、授業の予習・復習に役立っている。生徒たちは、即時に解答が確認できるため、不正解だった問題を何度も解いたり、考えたりすることができる。また、正解だった問題に関しては、くり返し解くことで生徒の自信に繋がる。教員は、学習状況により配信内容を選択し、配信日時を予約できる。また、生徒の正答率を確認できるため、授業内で正答率の低い問題の復習ができ、つまづきのある生徒への声掛けを深めることができる。

タブレットを持ち帰ることにより、AIドリル以外にも、調べ学習（職業調べ、上級学校調べなど）での活用やデジタル教科書を使用し、英語の音声を確認しながら音読練習をしたり、音声入力が必要な課題を宿題として提出させている。教員は、生徒の学習の進捗状況を確認することができる。